

平成29年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成29年5月30日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 京都市立病院 本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 桑原 安江, 山本 壯太, 能見 伸八郎,
木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川担当部長, 大島担当副部長, 榎木担当副部長,
高橋経営企画課長, 石田総務担当課長, 澤井管理PFI 担当課長, 北川京北病
院事務長,

1 開会

2 報告等

(1) 京都市立病院平成28年度決算の概算数値について

資料1に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 平成28年度は増収増益ということでしょうか。キャッシュフローは怎么样了。
 - ご説明差し上げたとおり、28年度は医業収益は大きく増えたが、収支については監査法人による監査前であるため、確定していない。
 - キャッシュフローについては、損益計算書には表れない新館整備、高額機器等の借入金の返済が29年度にかけてピークを迎える。当初からの想定範囲内であるが注視している。
- 薬品費について、診療報酬の改定は反映できているか。
 - 今回オプジーボの単価が高額であったために、年度途中の29年2月にオプジーボのみ価格改定が行われたが、28年度決算における支出全体に対する影響は軽微である。また、診療報酬の改定は2年に1度であり、次回は30年4月に行われる。
- 薬品費で利益を出せるのか。
 - 以前は薬品費で一定程度、利幅を確保できたが、国が診療報酬の薬価と製薬会社から病院等への納入価格の差をウォッチしており、薬価差の大きい薬品は、診療報酬改定のたびに下げられてきた。また、過剰な医薬品が投与され、利益につながらないよう医薬分業も進められているほか、近年革新的な新薬の登場により、利幅の薄い薬品が増加してきており、薬価差はわずかである。
 - 薬価差益をとることよりも、今年の最も大きな目標は、薬品ではなく手技収益を上げていくことであり、今年度5つの目標のうちの一つとして掲げている。手技収益を増やして収益構造を変え、安定黒字を図りたい。

(2) 年度計画における数値目標と実績数値

資料2に基づき森本理事長から説明

- 医療安全レポート提出件数が大きく増えたとのことだが、インシデントとアクシデントの内訳は。
 - インシデントとして報告し蓄積、共有することで、実際のアクシデントを未然に防止することを目指したもので、レポート提出件数が増えたことは、良いことだと考えている。インシデント報告が増えており、アクシデントが増えているわけではない。

- 私自身、紹介状をもらって病院を受診したことがあるが、紹介状なしで病院へ行った際よりも対応良く感じた。市立病院ではどのような対応をしているのか。
- 紹介状があれば、予約を取っていただくことができ、待ち時間短縮にもなるなど、患者さんにとってもメリットがある。
- 新規がん患者は全国的に増えているのではないかと感じているが、市立病院においても患者の獲得にもっと力を入れてもらいたい。
- がんの手術や治療件数等は伸びている。競争は激しいが、新しい患者を増やす努力を続けてまいりたい。
- 京北病院は全体的に頑張っているように感じるが、特に訪問看護が増えているように見えるが、病院としてまだ増やせるのか。
- 地域のニーズは増えており、できる限り対応していく。

(3) 経営状況月次報告（4月）

資料3に基づき阿部経営企画局次長から説明。

- 年度替わりで落ち込むことが多いと言われている4月の数値が大きく伸びており、好調なスタートを切れたように見受けるが、何かポイントがあったのか。
- 昨年度の脳神経外科が稼働していなかったことの反動で増加しているように見えていること、また、部長クラスの異動が1名のみで、引継ぎ等に伴う現場での混乱が少なかったことで前年度を上回った。
- 広報について、シャトルバスは、病院周辺地域の方が目にする有効なツールだと思うので、今年度大きくした車体を生かして、もっと市立病院の文字が目立つようにしてはどうか。
- 車体ラッピング等は、契約年数や金額等がネックになるが、効果的な方法を検討したい。
- 医療通訳は常勤の職員か。
- 英・中・韓の3カ国語に対応しており、英語・中国語は予約不要で、韓国語は予約制で決まった曜日に派遣されている。
- 地域包括ケア病床の利用者はどのような方か。
- 京北病院内の一般病床で、一定急性期を終えた方が入られている。他病院や地域から直接の受入はまだ進んでいない。
- 4月の実績を見ると、新たな取組が患者さんの掘り起しにつながっておらず、訪問看護と入院でパイの奪い合いをしているだけのように見えるので、周辺の医療機関に地域包括ケアのメリットを案内するなど、病院利用者を増やすための取組を行ってほしい。
- 人事異動で医療政策監のポストを置いたのは、まさにご指摘のとおり、医療機関との連携や地元ニーズを把握することによって、新たな患者の掘り起こしを狙っているものである。

3 閉会